

2021年7月11日～7月17日 各家庭でのディポーション用テキスト

■逸脱についての訓練 (2/4)

このレッスンは、若い人々の生涯にも年長者たちの生涯にも、何と大きな文字で記されていることだろう。課題ははっきりしている。時間の制限もはっきりしている。報酬も、失敗したときの罰と同様、必ず与えられることになっている。しかし、成功の丘の登り道には、気をそらせるようなものが待ち伏せている。それらは必ずしも、それ自体邪悪なものであるとはかぎらない。たとえば、単なる不注意や怠慢、空想、ラジオ、ざっくばらんな話し合い、雑誌記事などである。害のない手紙を長々と書くことさえ、なすべき義務があるときにはあとにしなければならない。与えられた仕事を完成し、与えられた課題をすべて完了し、信頼に背かないように忠実に事を行なおうとする気持ちは十分にある。それなのに暇の使い方を誤り、ぜいたくに流れ、あるいはつまらぬことのために「何やかやしているうちに」、肝心の仕事を成し遂げないうちに好機は逃げてしまう。「このほうがよい」は、「これが最善である」の敵である

ことがよくある。私たちは有益なことや重要な活動に忙しく従事している。しかし、今なすべき義務には従事していない。学生は、正科目よりも課外科目に、学問的なことよりも社交的なことに、難解なものよりも安易なものに、重要なものよりもおもしろいものに、クリエイティブ（創作的）なことよりもレクリエーション的なことに、そしてベストよりもベターのほうに流れてしまう誘惑にかられる。すべて価値あることについては、なすべき時と場所がある。しかし、同じ時、同じ場所なのではない。「何やかやしているうちに」とうとう何一つ満足に達成できなかったということにならないよう、注意すべきである。

危険な出来事のために任務からそれるという場合もある。ダニエルには、世俗的

な任務と神のための任務があった。彼がそのどちらにも実に忠実であったため、敵対者たちはそれを見て驚嘆した。だれでも、社会的にあるいは神への奉仕において責任ある立場につくと、不当なねたみに直面することは、避けがたいことである。ダニエルは誠実で有能であったために、ついに最高の地位を与えられた（ダニエル 6:1-3）。政府の高官たちは「訴える……何の口実も欠点も見つけることができなかった」（4節）。しかし彼らは、ただ一つ、ダニエルが毎日礼拝を欠かさないことに気がついた。そこで一計を案じ、王をそそのかして、三十日の間いっさいの礼拝を禁じ、もし違反する者があれば厳罰主義で臨む旨を布告させた。

ダニエルは彼らの謀略と口実を見抜いたが、神を畏れる者としてのあかしも危機に瀕したことを悟った。彼はこのバビロンの宮廷に仕えはじめた最初から、生ける神こそ自分の助け主であると、終始一貫して断言していた。彼はかつて、ネブカデネザル王に向かい、「天に秘密をあらわすひとりの神がおられ」と言った（2:28）。そのあとにも、王に警告して言った、「あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになります」（4:25）。彼はまた、神を汚すベルシャツアル王に、次のようにきびしく言うことができた。「あなたの贈り物はあなた自身で取っておき、あなたの報酬は他の人にお与えください。……王さま。いと高き神は、あなたの父上ネブカデネザルに、国……をお与えになり……あなたは……あなたの息と、あなたのすべての道をその手に握っておられる神をほめたたえませんでした」（5:17、18、22、23）。そして今、この新しい試練に直面したダニエルは、あかしのために、だれにでも見えるように窓の開かれた所で、「いつものように、日に三度、ひざまずき、彼の神の前に祈り、感謝していた」（6:10）。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第二十七章「逸脱についての訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。